



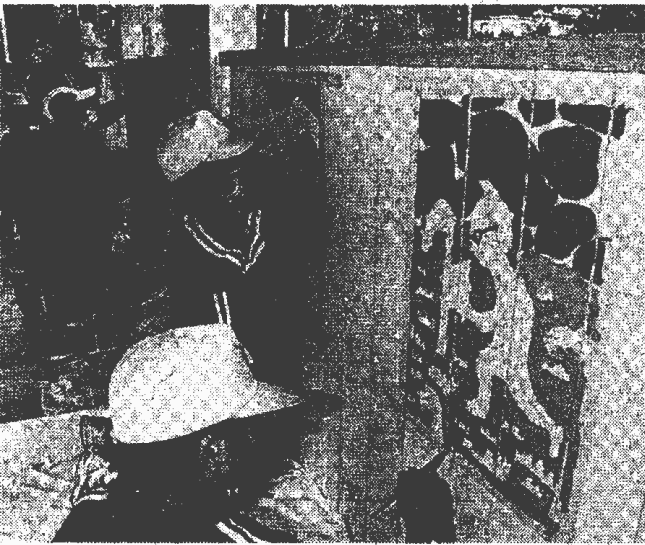
滝上バス停・駐輪場新装

昭和四十三年、田口線(電車)廃止、翌年、稲目トンネルがバス専用路線(布里経由)として運用を開始した。一時期は千枚田の大代集落までバスは通っていたが、あえなく運休と



お世話になったバス停、駐輪場の解体作業に協力した人々

中日新聞 東三河版 2011年3月4日



自分が農作業をしている絵を駐輪所兼待合所の壁に描く連谷小学校の児童ら。新城市海老で

なった。通学、通勤者は滝上のバス停まで自転車を利用、防犯や雨降り対策などを視野に連谷校区民が駐輪場を設置、一時期は満車状況にあった。その施設も老朽化し、立ち入り禁止の状態で十数年を経過。今回地元の「やまかつ建築」さんのご厚意で新築された。



平成23年2月13日解体、22日建前



解体作業には連谷地区役員をはじめ、大勢の集い、協力をみて、何事にも一致団結する連谷魂が健在であることに喜びを得た。また、バス停、駐輪場の場所をお貸し頂いている滝上、稲目の皆さんも解体作業のお手伝いに協力をいただき、休憩時には暖かいお茶や甘酒まで振舞っていた。心のこもった協力、お気持ちに感謝と絆を感じた佳き日であった。ありがとうさま

駐輪所に米作り壁画

新城・連谷小 児童が制作開始

新城市海老にある滝上バス停の建て替えられた駐輪所兼待合所で三日、近くの連谷小学校の全校児童九人が壁画の制作を始めた。八日も作業をして完成を目指す。

前の駐輪所兼待合所が老朽化して使えなくなっていたことから、学校近くで建築会社を営む小山勝由さん(仮名)と名付けられる。稲を天日干ししている

るところを描いた六年生の大橋新君(仮名)は「みんなが見てくれる所に自分の絵を残せてうれしい」と話した。(稲垣太郎)



あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業 成果報告会

あいち森と緑づくり税を活用した環境活動・学習推進事業の趣旨

愛知県の森や緑は今、荒廃、減少の危機にあることを愛知県では、様々な働きで私たちの暮らしをささえている森や緑を健全な状態で将来に引き継いでいこうと平成21年4月より「あいち森と緑づくり税」を導入し森林や里山林、都市の緑を整備、保全するなど様々な取り組みを進めています。

この事業に、21年度は45事業団体、22年度は87団体と「森と緑づくり」への参加と理解が一層の広がりをみせた。

鞍掛山麓千枚田保存会は昨年、一昨年ともこの事業に応募、採択され、千枚田を中心とした環境整備、学習活動を実施した。成果報告会は3月6日、愛・地球博記念公園 地球市民交流センターを会場に87団体(出席者約300名)のうち14団体が成果発表をされた。そのうち、保存会は3番バッターに活動状況をパワーポイントで発表。また、活動状況をカラープリントし、参加者に配布した。

以下、発表の概要 発表者 小山舜二 松下 誠

交付金活用活動状況：うっそうと生い茂る市道・生活道路は防犯、冬季凍結など生活を脅かす状況にある。また、最近「四谷の千枚田」の知名度も高くなり、都市近郊から癒し、憩いを求めて大勢が訪れる。地元では、都市部から訪れる方々によい景観・環境を提供するとともに、共同作業奉仕を通し、地域の絆を深めるために「あいち森と緑づくり事業」に挑戦した。

学習活動においては、稲作体験(田植えから脱穀まで)では水稻の生育調査、田んぼや小さな沢の生きもの調査を実施。棚田学習(一般、団体、学生)では生物多様性を学ぶと称して棚田の自然観察、生物調査、地形、地質、伝統・伝承文化などの資料を配布、参加者の好評を得た。

環境活動においては、枝葉の生い茂る県道、市道、生活道路の除伐を中心に環境整備を実施。小集落では手の付けようもない放置化されていた道路も「あいち森と緑づくり」事業の交付金活用による大変ありがたい制度で、長い間諦めに近かった山間集落にも一筋の光明が得られたと考える。

終わりに、人手では躊躇していた生活環境確保(除伐など)に高所作業車やダンプなど(リース)の導入が認められ、為し得なかった事態を可能にいただいた行政の計らいに感謝。と締めくくった。



発表会場

横浜ゴム新入社員研修

恒例となった横浜ゴム新城工場の新入社員研修が四月七日、四谷の千枚田で行われる。当日は、大型バス一台で新入社員(ロシア人十名も含む)が訪れ、保存会、お助け隊共々ボランティア活動を含め交流を図る。**耕作者にお願い！当日の作業として三筋の沢掃除をおこないますから、必要と思うものは事前に片づけておいて下さい。**

「四谷の千枚田と横浜ゴム」は環境に取り組みむ同志として善い雰囲気との交流を重ねている。研修を重ねることにより得た大きな効果として、

生産性の低い棚田の支援として環境にやさしく育てた稲藁を買っていただき、その藁をCO₂削減に効力を発する広葉樹(カシ、ナラ、ブナ)の育苗、苗木の敷き藁に活用、工場の敷地内に植樹。植樹祭には保存会も例年招待されている。その、波及効果の一つとして三月六日、海老の「とうせん桜里山プロジェクト」主催の東泉寺裏山山頂の一部に横浜ゴムで育てられた広葉樹が植えられるなど、広い繋がりをみせている。

ビオトープ

保存会は平成十四年、生き物の楽園「ビオトープ」を造成した。面積的には小規模であるが、現在、計り知れない効果が現れている。その、例として①ドジョウが沼田や小沢に増えた。②タニシもどんどん増えている。③モリアオガエル、ヤマアカガエル(放流)の自然産卵や、他のカエル類の棲息が拡大している。④ヘビやイモリも増えてきた。一昔前は農薬散布で生き物の姿が減少していたが、最近、農薬依存型から健康重視のコメづくりに変わりつつある。湧き水、天日干し、生き物と共生した体にやさしいコメを作って、食べて、健康を勝ち取れたら：

行 平成二十三年三月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二